

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三井不動産ロジスティクスパーク平塚	階数	地上4F
建設地	平塚市西真土二丁目1544番5	構造	S造
用途地域	工業専用地域・第4種高度地区	平均居住人員	255 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2015年10月1日
敷地面積	16,398 m ²	作成者	JFEビル株
建築面積	8,464 m ²	確認日	
延床面積	33,062 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	2.7
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	3.0
耐用性	3.0
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	4.1
地域環境	3.5
周辺環境	2.4

3 設計上の配慮事項		
総合	沿道沿いは緑地緩衝帯を設けて、高木緑地と調和する景観を形成できるように努めた。 また、既存の緑地を残せる部分は残すように努めた。	その他 0
Q1 室内環境	F☆☆☆☆および告示対象外の建材さらにVOC放出量が少ない建材を採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 緑化計画(まちづくり条例)を満足する緑地面積を確保した。 道路、隣地に沿って多く緑地が配置できるように配慮した。
LR1 エネルギー	主に消費エネルギーの大半を占める照明設備をLED化する事で大幅な消費量削減を達成した。	LR3 敷地外環境 敷地沿道沿いには、緑地を多く配置する計画とした。 また、バス停には周辺環境を配慮し、バス待合スペースを提供した。
Q2 サービス性能	比較的ゆとりある階高(平均階高6.5m)、天井高(CH2.7m)とし、南面に執務スペースを設け執務環境に配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	屋根、外壁の断熱性能を確保し、熱負荷の少ない空間とした。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される